

猫のパフの水の飲む回数がやけに多くなりました。
いつもこのように蛇口から飲むのが好きなので、そのたびに私たちに水をひねるように要求します。



それが頻繁になり、砂箱には驚くほどのおしっこの塊がたまりした。
(猫が私の孫よりえらいと思うのは生まれた直後から、トイレトレーニングができています)

猫が水を飲む回数がふえるとそれは糖尿だと、親しい猫仲間からきいていました。
それにパフはもう12歳ですから、ありえます。



しばらくするとこのように夫や私の運転を監視するようになりました。



かれこれ4時間くらいたつたときには、それまでは立って外をみていたのですが、ベッドで横たわるようになりました。



時速80マイルですから、耳が人間よりも敏感な猫には大変なことでしょう。

そうこうするうちに、いつもよりスムーズに娘のところにつきました。きっと教会の方々をお願いしていた祈りがきかれたのでしょう。すぐパフのトイレを手配して私たちの部屋に閉じ込めました。はじめはベッドの下に隠れていましたが、トイレに出てきて、また餌を食べ、探索を始めました。

2日目にはこのようにお気に入りの袋に入るまでになりました。



そして、自分のベッドには寝ずに、いつも我が家では無理強いしても私たちのベッドに載ってこないのに、なんと、私たちのベッドに載ってくるではありませんか。

わかりました。

私たちが一緒にいるということがパフには必要だったのです。ちょうど、神様が私たちと共にいてくださることが私たちを生かしてくださるのと同じなのでしょう。

「恐れるな、わたしがあなたとともにいる。 イザヤ 41:10」

インマヌエルの神様に感謝。

竹下弘美



折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00)

メール oriochurch@outlook.jp